☆終わりのない歌

１．光よ そして緑よ

光よ　そして緑よ 明るい世界 光と緑への問いかけ 明るい声質必須。低音でも喉に落さない

この胸に余るほど何を 胸は内部　余るほど大きな問い 少し胸の響きも　更なる広がりを表す

伝えたいのか 12～13小節の休符は休みでない 13～15小節 女声の大きなスラーの意味

(光よ)あなたほどにまっすぐに 一筋の光とその光の広がりを表現 胸を広げて、軟口蓋・奥歯を上げて

進むものはありません このcreacも更なる広がりを表現 低音でも喉でなく軟口蓋・鼻腔で響く

試して下さればわかること

それとも遊んでいるのですか 誰を遊んでいるのかを表現する 軟口蓋・上奥歯の上で響きをつくる

進み切れない僕たちを 最後までゆっくりcreac. 「ちーを」音程下がるがVolum上げる

Tenor 12小節は11小節を歌っているつもりで（口ずさんでもいいぐらい）。次の詩は続きだから。

15小節～22小節　男声が主、女声は男声の声量を聞いて強弱を調整すること。

男声はステレオ効果（ｵｸﾀｰｳﾞﾕﾆｿﾞﾝ）Bassも喉でなく軟口蓋の上の響きで歌わないとｵｸﾀｰｳﾞﾕﾆｿﾞﾝにならない。

23小節～24小節　ﾒﾛﾃﾞｨｰﾗｲﾝ「それとも＝Alto、遊んで＝Alto＋Tenor、いるのですか＝Soprano＋Tenor」。

２．月の夜

暗い夜の月が 明るい月の寒い夜 澄んだ空気感　「夜の」を弱めると暗い月

僕たちのこころを 「こころ」を漢字にしない理由 月に照らされている「こころ」を表現する

さえざえと照らす さえざえ、照らす　その情景を表現 さえざえ＝すっきりした様・塵ひとつない

その暗闇の中に この２行は女声だけ（Tenoｒの裏で） ひっそりたたずんでいる感を表現する

ふたりはひっそりたたずんで ひっそり感の表現 歌わない、硬口蓋部分で口ずさむように

照らされたそれぞれのこころを 女声はほぼｵｸﾀｰｳﾞﾕﾆｿﾞﾝを意識 「こころは」Top Tenor以外同じ

驚きをもって認め合う 驚きをもって＝語るparlando 「もって」女声音程下がるが痩せない

わすれないように この２行は一息で、regatoで 一本の管のように、凸凹の強弱は厳禁

息を止めて 言葉のﾃﾞｨｸｼｮﾝと音高の動きが一致 ずっと息を流して、息の速度を変えない

忘れないように この２行はスラーで繋がっていない 一本の管だが、「君」の前で言い換える

君を見た のぞき見、サスペンスではない　愛する君を見るような、優しい表現で

 女声は酔うように歌わない、語り、朗読　３度の関係を意識して

この時と 51～52小節と58～60小節は歌詞としては一つの節を構成している。

今のこと その間の休符は休みでなく、余韻が残るように＝楽譜を見ない　気持ちを切らない

波と海

地球は青い真珠で 宇宙から見た地球の様 俯瞰したような声質＝低音でも上で響かす

白く雲のマーブル模様



時間を忘れて 時間がない世界を表現

時間をなくして 「いたこと」＝過去を表現

僕たちがこうしていること 「そのものだった」＝過去の表現

いたこと 歌ではこの間に「この時と今のこと」

 を挟んでいる。

あれはただそれだけで 感情はいらない、淡々と表現する

そのものだった 虚飾のない唯一無二のものを表現する

この曲には一か所もf（フォルテ）がない。ｃｒｅａｃでも到達点はｍｐやmf。

つまり、力はまったく必要ない。凄みは厳禁。響きと広がりで強弱を作る。

ｐｐ＝25，ｐ＝40、ｍｐ＝55，ｍｆ＝70、ｆ＝85、ｆｆ＝100と考えると、この曲は

25～70であり、気持ちではなく情景を感情を込めないで表現すべきと思う。

☆野ばら

童は見たり　野なかの薔薇 都会に疲れたゲーテが近郊の村の少女に恋をした。

清らに咲ける　その色愛でつ しかし、その恋で元気を取り戻したゲーテは去っていった。

飽かずながむ このことを後悔して、自分の身勝手さを悔やみ、それを詩にした。

紅におう　野なかの薔薇

 シューベルトはこの詩に18歳の時に作曲した（若い！）。

手折りて往かん　野なかの薔薇 ゲーテもシューベルトもこの曲・詩は若い時のもの。

手折らば手折れ　思出ぐさに なので、そのように歌うべき。Bassであっても若い声質で歌うことが必須。

君を刺さん

紅におう　野なかの薔薇 1番はバラを愛でている雰囲気を出す。

 ２番はやや乱暴な若者を表現する。・・・・だから男声メロディー

童は折りぬ　野なかの薔薇 ３番は哀れな中にも、バラの生命力を感じるように演奏する。

手折りてあわれ　清らの色香

永久にあせぬ

紅におう　野なかの薔薇

Sah ein Knab’ ein Röslein stehn, 少年は見つけた、小さなバラを

Röslein auf der Haiden, 野中の小さなばらを、

War so jung und morgenshön, 若くすがすがしい美しさの。

Lief er schnell, es nah zu sehn, すぐ駆け寄って、そばで見た。

Sah’s mit wielen Freuden. 喜びにあふれて、見た。

Röslein, Röslein, Röslein rot, 小さなバラよ、赤い小さなバラよ、

Röslein auf der Heiden. 野中の小さなバラよ。

Knabe sprach: ich breche dich, 少年は言った、君を折るよ

Röslein auf der Heiden! 野中のちいさなバラよ。

Röslein sprach: ich steche dich, 小さなバラが言った、君を刺すよ、

Dass du ewig denkst an mich, 私をいつも思い出してくれるように。

Und ich will’s nicht leiden. 私は苦しんだりは、しないんだよ。

Röslein, Röslein, Röslein rot, 小さなバラよ、赤い小さなバラよ、

Röslein auf der Heiden. 野中の小さなバラよ。

Und der wilde Knabe brach 乱暴な少年は折った、

’s Röslein aud der Heiden; 野中の小さなバラを。

Röslein wehrte sich und stach, 小さなバラは抵抗して、彼を刺した。

Half ihm doch kein Weh und Ach 傷みも嘆きも、彼には効かず、

Musst‘ es eben leiden. 小さなバラは、ただ耐えるのみ。

Röslein, Röslein, Röslein rot, 小さなバラよ、赤い小さなバラよ、

Röslein auf der Heiden. 野中の小さなバラよ。

歌曲の参考音源（ﾍﾟｰﾀｰ・ｼｭﾗｲｱｰ(Tenor)、ﾌｨｯｼｬｰ=ﾃﾞｨｰｽｶｳ(ﾊﾞﾘﾄﾝ)、日本語訳詞(日本人ｱﾙﾄ)

[Schubert Heidenröslein Peter Schreier](https://www.youtube.com/watch?v=QG-B8inb9YE)

[シューベルト「野ばら」フィッシャー＝ディースカウ](https://www.youtube.com/watch?v=s-K-5g-EDtQ)

[シューベルト：野ばら（日本語歌唱）](https://www.youtube.com/watch?v=3w2mFqVX1KI)

☆ふるさとのように

そらのどこかに 空＝上を向いて、高い位置で発声する（喉に落とすことは厳禁、特にBass。）

ちいさな泉がひとつ

 第１節は小さな泉、冷たく澄んだ水が溢れている＝それを表現する声質と音量

冷たく澄んだ水が 　つまり、澄んだ・野太くない・凸凹がない・母音を膨らませない・はっきりな発語で

いつもいつでもあふれていた 　カラオケではなく、冷静に客観的な表現で演奏する(歌うのでなく、あくまで語る)

私をきよめてくれる 　　あふれていた＝水があふれている情景が思い浮かぶようなｒｅｇａｔｏ・抑揚を

 　　きよめてくれる＝清潔感。特にＢａｓｓの太い発生は汚れになるので気をつける

そらのどこかに 　　最後のＢａｓｓの音型（半音階）＝水が柔らかくあるれ流れている様を感じて

大きな手がひとつ 第２節は大きな手、子守歌、暖かい、守られているイメージ＝広がりと暖かな声質

 第1節とは異なる発声を行なう。　対比できるように声質を変える。各人で研究。

子守唄のように 　子守歌＝日本語のﾃﾞｨｸｼｮﾝからTenorのcreac.は21小節からの方がよい。

いつもいつでも暖かく 　女声のハミングは響きが欲しい。鼻腔でハミング。

私を守りつづけてくれる 　暖かく＝fは力はいらない、響きと明るい発声＝口腔の上の部分を大きく広げる

 　守り続けてくれる＝男声の間の休符は息を出さないだけ、口は閉じない。

そらのどこかに

まっすぐな言葉がひとつ 第３節は、まっすぐな言葉　勇気づけられる、愛に満ちた様＝更に雄大な世界感

 　全体として力みのない、広がりのあり、まっすぐな響き

迷い続ける私を 　特にBassは一本の濃い毛筆のように

いつもいつでも愛にみちて 　４パートの「わたしを」が聞けるように助詞の「を」の処理を意識する

そっと導いてくれる 　「いつも」「いつでも」のﾃﾞｨｸｼｮﾝにあった発声、「も」を強調しない。

 　男声「そっと」は前から３段階弱めるmpになることを意識も発語ははっきりと

私を愛してくれている 　「u」の和音進行を意識すること、自分だけでなく他のパートとの関係を意識する。

ふるさとの人のように 　最後の頁は大きな流れのなかでの暖かな優しさを雄大に表現する。

 　最後のハミングは安らぎを表現する。眠りに落ちるような落ち着きとdim.

☆夏は来ぬ　（初夏、６月初旬　梅雨前）

卯の花の、匂う垣根に 後のSwing部と対照的にregatoでmp～mfの柔らかな穏やかな発声で。

時鳥、早も来鳴きて だから、Bassの登場を遅くしている。（野太い発声を嫌っている）

忍音もらす、夏は来ぬ Bassの入りは、Sopranoと一緒なので、それを意識した発声にする。

 ここからSwing　踊るように　前に声を出して（喉の奥に持っていかない）

さみだれの、そそぐ山田に もっと活気をもって（con spirito）　シラブルを際立たせて。山谷ではない。

早乙女が、裳裾ぬらして Bass＝Sopranoなので、Bassも若々しく、溌剌とした発声で

玉苗植うる、夏は来ぬ 情景を思い浮かべて演奏する。

（この間、２節は省略されている）

五月やみ、蛍飛びかい Tenor,Bassがメロディーで入る。その後のメロディーラインを認識して。

水鶏鳴き、卯の花咲きて 30-33 Tenor+Bass、　34-37 Tenor、　38-39 Bass、　40-50 Soprano

早苗植えわたす、夏は来ぬ ここも情景を思い浮かべて演奏する。

楽譜の音符の下に歌詞に漢字を書きこんで下さい。